

健

風邪が治って何週間もたつのに、なぜか、せきだけがなかなか治らない。そんな人は「せきぜんそく」を疑ったほうがよいかもしれない。時には厄介な気管支ぜんそくになることもあり、早めに治療をしたい。

都内在住の会社員Aさん(40)は、昨年十一月に風邪をひいた。のどの痛みや熱はすぐになくなったが、せきだけが取れない。むしろ日増しにひどくなっていき、せきの勢いで吐いてしまうようになった。いったんせきが出だすと止まらず、明け方に何度も目を覚ます。ひどい寝不足になって、一月初めにクリニックに駆け込んだ。

診断は「せきぜんそくの疑い」。吸入薬などせきぜんそくの治療を受けたところ、二カ月近く続いていたせきが一週間で軽減。三週間でびたりと治まった。

治療した中田クリニック(東京・千代田)の呼吸器専門医、中田絃一郎院長は「風邪は普通、三日もすれば治っていく。空せきが何週間も続くのなら、せきぜんそくの可能性がある」と話す。

せきぜんそくはAさんのように風邪をきっかけに発症するケースが多い。風邪が治った後も、たんがまったく出ないか、黄色くない透明なたんしか出ない空せきが、三〜四週間、時には数カ月も続く。就寝時や明け

## 風邪治ったのに…ゴホゴホ せきぜんそく 早めに治療

まっ。感染症ではないので、人にはうつらない。ステロイド吸入

せきぜんそくは通常のせき止めは効かない。せきぜんそくと同じように気道に炎症が起きているため、これを抑えるステロイド薬の吸入と、気管支拡張薬の吸入や内服が治療の基本となる。抗ヒスタミン剤もしばしば用いられる。症状がひどくなると、一週間ほどステロイドの飲み薬を併用することももある。

原因ははっきり分かっていないが、多くはアレルギー性と考えられている。ハウスダストやダニ

### 気管支ぜんそく 移行のリスクも

など、アレルギー検査によって、せきを引き起こす抗原がわかったら、寝具などにいていねいに掃除機をかけることで症状が改善する。

呼吸時に「ヒューヒュー」という音がしたり息苦しくなったりしない点が、気管支ぜんそくと違う。ただ、せきぜんそく

患者の一〜三割が一、二年で気管支ぜんそくに移行するとみられている。昭和大学の足立満教授は「早期にステロイド吸入を開始すれば、気管支ぜんそくになるリスクをある程度抑えられる」と説明する。

治療を開始すれば数週間でせきがおさまり、薬もやめられる。ただ、風邪や季節の変わり目をきっかけに再発することも多い。

あまり頻繁に再発を繰り返すような場合は、吸入の継続で発症を抑えることは可能。ステロイドには「副作用が怖い」というイメージがあるが、

### 専門医の診察を

足立教授自身もせきぜんそくの患者だ。学会の司会をしている最中にせきが止まらなくなり、往生した経験から「今は普段から毎晩ステロイドを吸入して症状を抑えています」という。

せきぜんそくが認識されるようになったのは、比較的最近だ。どの医師でも病気を熟知しているわけではない。「せきぜんそくかも……」と思ったら、呼吸器やアレルギーの専門医に診てもらおうのがいいだろう。各地域の専門医は、日本呼吸器学会や日本アレルギー学会のホームページで調べることができる。

せきぜんそく患者のせきを誘発する因子

